

三年峠と三年坂

——韓国・日本そして京都——

吉 村 裕 美
中 河 督 裕

1. はじめに

1.1 本稿の目的と位置づけ

小学校国語教材に「三年とうげ」という作品がある。光村図書の3年生用教科書教材で、韓国・朝鮮の昔話として収録されている。単元の目標は「本と友だちになろう」で、「読む／書く」教材として扱われている。また、実際の教室活動では、韓国・朝鮮文化¹⁾という異文化理解教材としても使われている。

この教材のあらすじは、京都の三年坂伝説と酷似している。韓国・朝鮮と日本の昔話には類話が多いことが知られているが、これは偶然であろうか。それとも何らかの必然性があつてのことだろうか。

本稿では、この疑問を解くための基本的な資料を提供する。最終的な結論には至っていないが、今後の研究の可能性と方向性を示唆することを目標としている。

この問題を考えるにあたり、朝鮮総督府編纂の教科書と戦後韓国で使われた教科書、さらに現在日本で使われている教科書というものが果たしている役割にも注目する。従来から指摘されていることではあるが、「～らしさ」や、「名作・伝説」あるいは「定説」と言われるものは実は元から自然にあるものではなく、創られたものである可能性がある。その創作過程に、教科書という媒体が関わることもある。そのことについて考えるきっかけも提示していきたい。

1.2 本稿の構成

本稿の構成は以下のとおりである。まず、2で、調査のきっかけとなった光村図書

1) 以下、韓国、朝鮮という呼称については、適切な使い分けが必要であるが、戦前の植民地朝鮮については朝鮮、戦後韓国に限定されることは韓国と仮に呼ぶ。どちらにも共通する場合は併記を基本とするが厳密ではないことをお許しいただきたい。

の「三年とうげ」について概観する。つぎに3では、京都の三年坂伝説について基本資料を紹介する。同様の三年坂伝説は日本各地に見られるが、この点について4で紹介する。次に5では、「三年峠」という教材が朝鮮総督府編纂の朝鮮語読本の教材として採用されていたことを確認し、戦後韓国でも形を変えて教科書教材として残ったことを見る。最後に、6では日本国内でこの伝説がどのように「語り直されているか」という点について注目する。むすびとして、以上のことを確認したうえで、小学校の教育現場に求められる姿勢とは何かということを考える。

なお、本稿は吉村裕美と中河督裕の共著であるが、その分担は以下のとおりである。調査については共同で行っているが、国語教育関係および絵本など出典については中河が、日本の三年坂伝説の調査および朝鮮総督府編纂教科書については吉村が中心になって行った。論文化にあたり、吉村が一次原稿を執筆し、中河とディスカッションして改稿を行った。

2. 調査のきっかけ—教科書教材「三年とうげ」—

2.1 小学校国語教材「三年とうげ」とは

まず、調査のきっかけとなった、小学校国語教材「三年とうげ 李錦玉作・朴民宜絵」(光村図書3年上)について基本的なことを確認しておきたい。

この教材の出典は絵本の『新・創作絵本21 さんねん峠—朝鮮のむかしばなし—』李錦玉(1981年岩崎書店)である。教材化するにあたり、漢字表記などに変更が加えられているが、基本的にそのまま採録されている。少し長くなるが、教科書の表記に従って全文を引用する。紙幅の都合上、一部改行を/で表している。また読点をコンマで表記する。

三年とうげ

ある所に、三年とうげとよばれるとうげがありました。

あまり高くない、なだらかなとうげでした。

春には、すみれ、たんぽぽ、ふでりんどう。とうげからふもとまでさきみだれました。れんげつつじのさくころは、だれだつてため息の出るほどよいながめでした。

秋には、かえで、がまずみ、ぬるでの葉。とうげからふもとまで美しく色づきました。白いすすきの光るころは、だれだつてため息の出るほど、よいながめで

した。

三年とうげには、昔から、こんな言いつたえがありました。

「三年とうげで 転ぶでない。／ 三年とうげで転んだならば、三年きりしか生きられぬ。／ 長生きしたけりゃ、／ 転ぶでないぞ。

三年とうげで 転んだならば、／ 長生きしたくも 生きられぬ。」

ですから、三年とうげをこえるときは、みんな、転ばないように、おそるおそる歩きました。

ある秋の日のことでした。一人のおじいさんが、となり村へ、反物を売りに行きました。そして、帰り道、三年とうげにさしかかりました。白いすすきの光るころでした。おじいさんは、こしを下ろしてひと息入れながら、美しいながめにうっとりしていました。しばらくして、／「こうしちゃおれぬ。日がくれる。」／おじいさんはあわてて立ち上がると、

「三年とうげで 転ぶでないぞ。／ 三年とうげで 転んだならば、三年きりしか 生きられぬ。」

と、足を急がせました。

お日さまが西にかたむき、夕やけ空がだんだん暗くなりました。

ところがたいへん、あんなに気をつけて歩いていたのに、おじいさんは、石につまづいて転んでしまいました。おじいさんは真っ青になり、がたがたふるえましました。

家にすっとなでいき、おばあさんにしがみつき、おいおいなきました。

「ああ、どうしよう、どうしよう。わしのじゅみょうは、あと三年じゃ。三年しか生きられぬのじゃあ。」

その日から、おじいさんは、ごはんも食べずに、ふとんにもぐりこみ、とうとう病気になるてしまいました。お医者をやぶやら、薬を飲ませるやら、おばあさんはつきっきりでかん病しました。けれども、おじいさんの病気はどんどん重くなるばかり。村の人たちもみんな心配しました。

そんなある日のこと、水車屋のトルトリが、みまいに来ました。

「おいらの言うとおりにすれば、おじいさんの病気はきつとなおるよ。」

「どうすればなおるんじゃ。」／おじいさんは、ふとんから顔を出しました。

「なおるとも。三年とうげで、もう一度転ぶんだよ。」

「ばかな。わしに、もっと早く死ねと言うのか。」

「そうじゃないんだよ。一度転ぶと、三年生きるんだろ。二度転べば六年、三

度転べば九年、四度転べば十二年。このように、何度も転べば、うんと長生きできるはずだよ。」

おじいさんは、しばらく考えていましたが、うなずきました。

「うん、なるほど、なるほど。」

そして、ふとんからはね起きると、三年とうげに行き、わざとひっくり返り、転びました。

このときです。ぬるでの木のかげから、おもしろい歌が聞こえてきました。

「えいやら えいやら えいやらや。／ 一ぺん転べば 三年で、十ぺん転べば 三十年、／ 百ぺん転べば 三百年。

こけて 転んで ひざついて、／ しりもちついて でんぐり返り、長生きするとは、こりゃ めでたい。」

おじいさんは、すっかりうれしくなりました。

ころりん、ころりん、すってんころり、べったんころりん、ひょいころ、ころりんと、転びました。あんまりうれしくなったので、しまい、とうげからふもとまで、ころころころりんと、転がり落ちてしまいました。そして、けろけろけろとした顔をして、

「もうわしの病気はなおった。百年も、二百年も、長生きができるわい。」

と、にこにこわらいました。

こうして、おじいさんは、すっかり元気になり、おばあさんと二人なかよく、幸せに、長生きしたということです。

ところで、三年とうげのぬるでの木のかげで、

「えいやら えいやら えいやらや。／ 一ぺん転べば 三年で、十ぺん転べば 三十年、／ 百ぺん転べば 三百年。

こけて 転んで ひざついて、／ しりもちついて でんぐり返り、長生きするとは、こりゃ めでたい。」

と歌ったのはだれだったのでしょうかね。

作者の李錦玉（リ・クムオギ）氏は、1929年、大阪阿倍野区生まれの在日作家である。詩の創作や朝鮮の民話の再話や現代文学作品の翻訳などを手がけている²⁾。両親の本籍は全羅南道のモッポ。この民話をどこで聞いたかについては、はっきりして

2) 「イムジン河」の訳詞者の一人でもある（李氏の訳詞のタイトルは「リムジンガン」）。

いない。『実践国語研究別冊』174（「三年とうげ」教材研究と全授業記録 1997年明治図書）に収録された本人の講演記録によると、以下のとおりである。

自分の国の民話については、聞くチャンスも少なかったですし、聞いたのも極僅かしか記憶に残ってないんですけど、三年とうげともう一つ、チョンケグリ、青がえるの話がとっても残っているんですね。（中略）三年とうげは多分、私の国の人とは違うんですけど、多分父の所へ手紙の代筆を頼みにきたおじいさん方じゃないかと思うんですけど。ちょくちょく来たおじいさんから、その話を聞いたのを、断片的に覚えておりました。

また、光村図書の指導書にある「作者のことは 民話の楽しさ奥深さ」には次のようにも記されており、断片的な記憶を元に、李氏が創作をしたことが書かれている。

「さんねん峠」を日本語で再現、完成するまで、長い間こころの中でこのお話をあたためていました。仕事のあいまにふっと思い出しては書きとめ、旅先の街で色づいたナナカマドの並木の赤い実を目にしながら、さんねん峠に登場する人物の表情や情景を思い浮かべたり、そうしているうちに道を歩いてもお話が歌のように口をついてでるのです。作品を書いていると、大へん苦しい思いをしてできあがったものと、楽しく書けたものがありますが、「さんねん峠」は後者のほうです。

原作の絵本のタイトルにあるように、これは『創作絵本』であることは確認しておくかなければならない。

2.2 教材としての扱われ方

この教材は、三年（上）の4つ目の単元として配置されており、「本と友だちになろう」という学習目標が掲げられている。さらに詳細な目標として、「いろいろな本を読んで、おもしろさを見つけ、友だちにしょうかいしましょう」とあり、「読む」「書く」教材として位置づけられている。

学習（学習のてびき）には、次の3点が課題として挙げられている。

▶ 「三年とうげ」を読んで、おもしろいと思ったことや心にのこったことを発表しましょう。わけもいっしょに話しましょう。／友だちと自分の考えをくらべて、同じと

ころやちがうところを見つけましょう。

言葉

▶ 「三年とうげ」には、声に出して読むと調子のよいところがたくさんあります。さがして、読みましょう。

たいせつ

おもしろさの発見

お話のおもしろさは、いろいろあります。

- ・登場人物——行動や人がら／・出来事——ふしぎなこと、意外なこと／・時代や場所
- ・物語のすじ—場面のうつりかわり／・言葉の使い方や書き方、文章の調子
- ・心にのこる言葉や文／・絵など

少なくともこの範囲では、音読に適した物語教材としての学習課題が挙げられている。

しかし、授業実践では、「童話を通じて、お隣の国のことを知ろう」という発展的な展開が行われている。換言すると、この「三年とうげ」は、異文化理解教材としての側面を持っている。

また、光村図書のHPにある「授業のスパイス」（授業に役立つ情報のコーナー）には、「教科書掲載作品に関する情報」があり、そこに「三年とうげ」については、「挿絵で学ぼう、隣国の文化」という情報が掲げられている。そこには以下のようにある。

小学校三年上に掲載されている「三年とうげ」は朝鮮の民話です。朴民宜（パク・ミニ）さんが描かれた「三年とうげ」の挿絵は、その細部にわたり、朝鮮の伝統的な暮らしを伝えてくれます。いったい、わたしたちのお隣の国はどのような文化を築いてきたのだろう。どんなものを食べ、どんなものを着て、どんな家で暮らしてきたのだろう……。挿絵から隣国の文化を少し勉強してみましょう。

ここでは、挿絵から朝鮮の伝統的な暮らしを勉強するという発展的学習が提案されている。また、光村の指導書には作者の李氏の言葉が掲載されていて、そこには次のような一節があり、ストーリー展開そのものにも朝鮮・韓国らしさが表れていると記されている。

私たちの祖国は、今まで度重なる異民族の侵略をはねのけながらも他国を圧迫したことのない平和を愛する民族です。家族を大切に故郷をこよなく愛し、どんな困難な時も力づよく楽天的に生きてきました。「さんねん峠」のお話には、そんな民族の心が映し出されているように思えてなりません。

2.3 問題のありか

以上、「三年とうげ」という教材を紹介してきた。光村図書の小学校国語教科書は強い現場の支持があり、そのシェアは6割を超えるといわれているので、多くの児童がこの教材を「隣の国の民話」として学んでいる。

国語教育の関係では、この民話は韓国・朝鮮の代表的な民話であるというのが定説化している。先に引用した『実践国語研究別冊』174（1997年 明治図書）でも、ソウル市の初等学校教諭権五勲（クォン・オフン）氏が次のように述べていて、日本の先生方の多くは、そう信じている。

「三年とうげ」は、韓国の小学校の国語教科書に何十年前からのせられてきた、韓国の著名な伝承童話のひとつである。三〇年あまり前、私が小学校に通ったときにも低学年の国語教科書にのせられていて、興味深く読んだことを覚えている。これまでも、いろいろな指導をするための教材として、低学年用の国語教科書にのせられてきた。

現在、「三年とうげ」は、五学年一学期の「書くこと」の教科書にのせられているが、そこでは、絵を見てお話を作る、絵にふさわしい話を書き入れる等の形での指導が示されている。

実際に韓国の教科書でどのようにこの教材が変遷したかということについては、5節で述べるが、ここで確認しておきたいのは、実際には韓国の若い世代はあまりこの話を知らないという事実である。筆者の一人吉村は、かつての勤務校である大阪大学および大学院在学の韓国人留学生たちに「三年峠」という話を聞いたことがあるかと尋ねてみたことがある。多くは首をかしげた。あらすじを説明するとかろうじて聞いたことがあるという学生もあったが、反応はそれほど早くなかった。少なくとも、自然な形で幼い頃に耳にする代表的な昔話・民話のなかにはこの話は含まれてはいないようだった。実際に、韓国・朝鮮の昔話を集めて日本語で紹介しているような本（1巻本）などに、この話が含まれているものは、管見の限りでは見つからなかった。

一方で、京都の清水寺の近くにある三年坂に類話があることは、絵本の作者の李氏も指摘を受けていることが記されている。以下は前の引用と同じ講演記録の一部である。

京都の清水寺というところに「三年坂」というのがあって、京都の先生方は、「内容は違うけども、そこで転ぶと良くないことがある。だから茶店で瓢箪を買って帰ると災いから逃れられるんですよ。」とおっしゃるので、日本にもこういう話があるんだなあと思いました。

調べてみると、同様の伝説は、京都の三年坂はもとより、日本の各地に見られることがわかってきた。そこで、ここで節を改めて、京都の三年坂、日本の三年坂について観察したあとで、再度韓国・朝鮮の三年峠にもどるという順序で考察を進めていこう。

3. 京都の三年坂伝説

3.1 清水寺と三年坂

世界文化遺産として、多くの観光客を集める清水寺への参詣道に「三年坂」はある。その語源については諸説ある。代表的なものを箇条書きにすると次のようになる。

○清水寺の子安の塔に続く坂であるため産寧坂という。(産は「うむ」、寧は「やどる」)

この坂を上り清水寺へ参詣すると安産といわれている。

○大同三年に出来たので三年坂と呼ぶ。

○清水寺へ参詣の人が、この坂でふたたび念願を深くするというので再念坂と言った。

この坂には、転ぶと三年で死ぬという伝説(迷信)がある³⁾。ここではいくつかの資料からこの伝説を見ておこう。

3) 「～すると三年で死ぬ」という迷信はいくつかあるようで、代表的なのは「寺の境内で転ぶと三年で死ぬ」というものと「柿の木から落ちると三年で死ぬ」の二つのようである。

3.2 資料に見られる三年坂伝説

ここで、いくつかの資料に見られる京都の三年坂にまつわる叙述を確認しておこう。以下の引用は『新修京都叢書』（全23巻臨川書店）からの引用である。

○『洛陽名所集 卷之四』（万治元年 1658年）

再念坂

長さ半町ばかりもあらんか。世のことはぎに三年坂とて。この坂にてつまづきころべる人。かならず三年をすくさず身にしよからぬなど云つたへたり。本義は。清水寺へ参詣の人。此坂にて。ふたゝび念願ふかくなる事とて。再念坂と云侍りぬ

○『出来齋京土産 卷之三』（延宝5年 1677年）

三年坂 付轟橋

坂の長三十間ばかり北より南にむかひてのぼる世のいはいはく此坂にてつまづきころぶ人はかならず三年を過ぎず死すといふ。今もしらぬ命なる身を此坂にてころぶならばまづ二年のうちは死ぬまじとてわらひける人もあり。又産寧坂といふ人もあり。(以下略)

後半のポジティブ思考に転換するあたりは三年峠などとも共通する。

○『京師巡覧集 卷之四』（延宝7年 1679年）

三年坂

俗曰於此坂寔僵則不期三年而死焉又曰始詣清水宿願成就再可掛念普門故名再年坂

諸本に引用されることの多い叙述である。『京都坊目誌』などもこの記述を引用する。

○『都名所車』（正徳4年 1714年）

三年坂

此坂の下なる石橋をとゞろきの橋と云いにしへ清水のとゞろきの坊ありし跡也。清水は大同二年に建立此坂は明る大同三年に出来せし故に三年坂と云坂の長さ三十間計北より南へ上る坂なり世のならはしに此坂にてころぶ人三年の内に死するといへり大きなあやまり去頃七十計の禅門ころびしかば往来の人あは

れびていとしや三年の内に死するであらんといへば此老人につこと笑ひ明日を
もしらぬいのちなるに先二年は心やすしといへり（以下略）

後半の話がかなり具体的になっている。『山城名所寺社物語 卷之二』（享保2年
1717年）もほぼ同じ内容。

以上、京都の三年坂伝説についていくつか代表的なものを見てきた。最近の子ども
向けの京都昔話集のようなものにもこの伝説は収録されていることがあり、京都界限
ではある程度知られた伝承である。

ところで、三年坂の伝説があるのは、京都だけではない。次の節では、日本各地の三
年坂伝説について概観しておこう。

4. 日本各地の「三年坂伝説」

4.1 データ

以下のデータは網羅的ではないが、ざっと調べてみても、日本全国には、「三年
坂」と呼ばれる場所がたくさんあり、清水寺と同様の伝説がある坂も見られる。近所
にお寺がある場合が多いので、寺社が確認できた場合はそれも備考に示す。

- ・東京都新宿区津久戸町 伝説有
備考：死なないためには三度土をなめる。西照院・成願院が昔あった。
- ・東京都新宿区神楽坂3丁目 伝説有
備考：死なないためには三度土をなめる。
- ・東京都新宿区牛込矢来下 伝説不明 備考：青松寺があった。
- ・東京都港区麻生台1丁目 伝説不明 備考：長音寺があった
- ・東京都千代田区五番町 伝説有 備考：死なないためには三度土をなめる。
三念寺近所。
- ・東京都千代田区（旧）文部省～財務省 伝説不明
備考：江戸開幕前は寺院があった。
- ・東京都千代田区衆議院議員会館～日枝神社 伝説不明
- ・東京都杉並区成田西3丁目 伝説有 備考：宝昌寺近所
- ・東京都台東区初音町4丁目 伝説不明 備考：霊梅院・本立寺・安立寺近所
- ・神奈川県座間市（巡礼街道） 伝説有 備考：念仏堂近所

- ・神奈川県座間市（鎌倉街道） 伝説有 備考：星谷寺・社近所
- ・山梨県甲府市愛宕町三念坂 伝説有 備考：長禅寺近所
- ・岐阜県下呂市（益田南高校前） 伝説不明
- ・和歌山県和歌山市（三年坂通り） 伝説有
備考：隠居が転んで幼なじみの弥蔵さんが
知恵を出す
- ・和歌山県高野山 伝説有 備考：石段は43段42（しに）を越えると
いう意味で
- ・熊本県熊本市（三年坂通り） 伝説有
備考：地名由来さまざま（加藤清正が三年
がかりで急坂を均した事からなど）

このうち、東京の三年坂と和歌山の三年坂について、もう少し詳しく見てみよう。

4.2 東京の三年坂

東京は坂の多い町である。東京の坂についてはそれを巡る散歩が提案されていたり、坂の研究をされている方々があたり（「坂学会」という組織もある）、さまざまなことが報告されている。ここでは、少し長くなるが、横関英一氏の『江戸の坂・東京の坂』（1970年 有峰書店）の「三年坂にまつわる俗信」から一部を引用することで東京での伝承を確認しておこう。

三年坂と呼ぶ江戸時代の坂が、旧東京市内に六ヶ所ばかりある。いずれも寺院、墓地のそば、または、そこからそれが見えるところの坂である。

三年坂はときどき三念坂とも書く。昔、この坂で転んだものは、三年のうちに死ぬというばからしい迷信があった。お寺の境内でころんだものは、すぐにその土を三度なめなければならない。もちろん土をなめるまねをすればよいのであるが、わたくしたちも子供のころ、叔母などによくやらされたものである。それをしないと三年の内に死ぬのだと、そのときいつもきかされたものだ。坂はころびやすい場所であるので、お寺のそばの坂は、とくに人々によって用心された。こうした坂が三年坂と呼ばれたのである。三度土をなめるということは、三たび仏に安泰を念願することである。とにかく、三年坂という坂は、坂のそばに寺か墓地があって、四辺が静寂で、気味の悪いほど厳粛な場所の坂を言ったものようである。古い静寂なお寺の境内で味

わうものと同じような気持ちである。(中略)

要するに、三年坂の坂名因由は、きわめて平凡な、「この坂でころぶものは三年のうち死ぬ」という俗信からきたものである。

三年坂という名称は、不吉な意味を持っているので、いつの間にか他の名称に改められたものが多い。特に、おめでたい名前が変わっている。たとえば、三年坂が産寧坂とか三延坂、三念坂などと。それから全く「三年」をきらって、鶯坂、蛭坂、淡路坂、地藏坂のように別の名前に改められたものもある。

三年坂に似たものに、二年坂(二寧坂とも)、百日坂、袖きり坂、袖もぎ坂、花折坂などという坂もあるが、これらは三年坂と同じ種類のもので、二年坂は三年が二年になっただけである。百日坂はさらに期限が短縮されて、この坂でころぶと百日の内に死ぬということになっている。袖きり坂、袖もぎ坂、花折坂などは、この坂でころぶとやはり三年の内に死ぬというのであるが、仏寺に花をささげたり、自分の着物の袖を切ってささげることによって、死の難からのがれることができるというのである。

こうした俗信は、かなり古い昔から行われ、しかも日本全国にわたって流行し、信仰されたもので、地名としても、いたるところに、その根強い民俗的信仰の記録を残しているのである。

このように、三年坂や同様の迷信がある坂はたくさんあることが記されている⁴⁾。

4.3 和歌山の三年坂

和歌山城の南に「三年坂通り」がある。県立美術館もあり、洒落たレストランなどもあって、和歌山市のちょっとしたスポットになっている。この坂にも三年坂伝説がある。さらに興味深いのは、この坂にまつわる伝説はその後半が「三年峠」とよく似ている点である。以下、神坂次郎の文章『紀州史散策 第五集』(1982年)から引用してみよう。

三年坂の算術

俗信的ないいならわしの一つに、紀州和歌山城下の三年坂の話がある。

いまから三百六十年ほど前の元和年間に城の南側の砂丘を削って出来た東西の新道

4) 平成18年度江戸川乱歩賞を受賞した早瀬乱の『三年坂 火の夢』という作品はこの東京の三年坂探しが縦糸となっている作品である。

(三年坂)は、なんの変哲もない切り通しの坂道だが、いつ誰いうとなく「この坂の途中で転ぶと、三年目に死ぬ」と伝えられ、やがてそれが坂の名になり、昭和の現在までつづいている。ころぶと三年のいのち、というのは穏やかでないが、登城する藩士や、城下の人びとはそれを信じていたのであろうか。

江戸時代も末のころ、商家の隠居、久左衛門がこの坂で転んだ。縁起かつぎの隠居なので、青い顔をして帰ってくるなり「ああ、わしの命もあと三年!」と、布団をひっかぶって寝込んでしまった。家人たちが、それは迷信ですよと慰めても、ききいれる隠居ではない。「あと三年、あと三年……」。

そこへやって来たのが幼馴染みの弥蔵老人で、頭をかかえこんでいる久左衛門をじろりと見て、あろうことか「あと十ぺんか二十ぺんコケ(転倒)て来たらどうじゃ」などと言う。弥蔵の憎まれ口に隠居は目を吊りあげ「おんしゃ(お前)は何ちゅう友達甲斐のない」と、かんかんに怒った。が、コケて来いという弥蔵の“算術”をきいて、にわかに明るい表情になった。「ええか、あの坂で一ぺんコケたら、三年目に死ぬ。一ぺんで三年目なら二度コケたら六年目、三度コケたら九年目に死ぬ……数よけいにコケるほど命がのびていく。そやからあと二十ぺんもコケたら、いま六十一歳のお前なら百二十一まで生きるちゅう勘定」「なるほど、ほんなら毎日行ってコケて来よう」

と床から起きあがった……という噺がある。

このように、和歌山の伝説のストーリー展開は基本的には「三年峠」と同じである。知恵者が子供なのか、幼なじみの弥蔵なのかというように登場人物の設定には違いがあるが、近い話であることは間違いがない。

4.4 問題の複雑化

この第4節では、日本各地の「三年坂」とその伝説について見てきた。この結果、どうやら朝鮮・韓国の「三年峠」の伝説と、日本各地の「三年坂」伝説はよく似ていることが確認された。なぜ、このように類話があるのか、という点については次の3つの可能性がある。

- 1) 日本と韓国で偶然類話が生まれた
- 2) 中国で生まれた話が、日本と韓国へ伝播した
- 3) 日本の民話(俗説)が韓国へ伝播した(→教科書の媒介)

民話比較研究については、難しい点が多い。伝播の方向性についてはさらに証明が

難しい点がある。韓国と日本の昔話の比較研究などもあるが（崔仁鶴『韓日昔話の比較研究』1995年など）、アジア全体で類話が見られることも多い。従って、軽々な結論は出せないのだが、ここで少し注目したいのは、「三年峠」という民話がいわゆる日帝時代に植民地朝鮮で使われた教科書の教材であったという事実である。概要を次の節で確認しておこう。

5. 韓国・朝鮮の教科書教材としての「三年峠」

5.1 朝鮮総督府編纂教科書教材としての「三年峠」

教科書教材は、多くの人たちが読書体験を共有するという点で特別な位置づけとなる。一種の権威づけも伴い、小説作品なども名作であると理解されることは、現在の高校国語教科書の安定小説教材である「羅生門」「山月記」「こころ」などについて考えてみても理解できる。また、戦前の国定教科書が国民が共通の価値観を醸成するのに大きな役割を果たしていたことは否定できない。

戦前の日本植民地における教育とそこでの教科書編纂全体のかかえる基礎的な問題などについて議論するだけの用意はない。ここでは、「三年峠」が朝鮮総督府編纂教科書的一种である『普通学校朝鮮語読本 卷四』の教材として採録されていたという事実の報告に留まる。

植民地朝鮮における初等教育と教科書制度全体については、本報告書所収の三ツ井論文をご参照いただきたい。若干の重複はあると思うが、基本情報を確認しておく。

朝鮮総督府による朝鮮語教育は、当初の必修科目から随意科目になり最後は廃止されるという大きな流れがある。その過程で、5回に渡り教科書の編纂・改訂が行われた。「三年峠」は第3期（1928年）の改訂で教材として登場した。少し長くなるが、以下、大阪大学大学院博士後期課程の方允炯氏による日本語訳を付して全文を下に引用する⁵⁾。この部分の脚注は方氏によるものである。また、読者の便宜のため、日本語訳の部分をゴチック体で示す。

‘3년 고개’ 『3年峠』

1. 原文：옛날어느두메에 한老人이잇섯습니다.

日本語訳：昔、ある山にお爺さんが住んでいました。

5) 方氏には現代韓国語訳も作成していただいたが、紙幅の都合上本稿では省略をさせていただく。なお、方氏は現在、高麗大学で非常勤講師をされている。

2. 原文 : 어느날장에갓다돌아오는길에한고개를넘다가잘못하야돌에걸려너머졌습니
다.
日本語訳 : ある日, 買い物からの帰り道で, ある峠を越える途中, 間違えて石に
つまづいて倒れました.
3. 原文 : 이고개는三年고개라는고개인데여기서한번너머지는사람은三年밖에더못산
다는말이傳하야나려오는고개임으로老人은그만엇지할줄모르고허둥지둥집
으로돌아와서안해와아들을불러노코, 「내가오날三年고개에서너머졌다 나
는인제三年밖에더못살겠구나」하며웁니다.
日本語訳 : この峠は『3年峠』という峠で, ここで一度倒れた人は, あと3年し
か生きられないという話が伝わっている峠です。そのために, お爺さんは
途方に暮れて, あたふたと家に帰りました。そして, 妻と息子達を呼ん
で, 「俺は今日『3年峠』で倒れた。俺はもう3年しか生きられないだろ
うな。」と言いながら, 泣きました.
4. 原文 : 그의안해와아들들도三年고개에서너머졌다는말을듯고는엇지할도리가업서
서다만갈치울기만할뿐이엿습니다.
日本語訳 : 彼の妻と息子達も『3年峠』で倒れたという話を聞いて, 途方に暮
れ, ただ一緒に泣くだけでした.
5. 原文 : 그러는동안에날이갈수록老人의몸은점점衰弱하야져서나중에는밤도변변이
못먹게되엿습니다.
日本語訳 : 日がたつにつれ, お爺さんの体はだんだん衰弱してきて, 食事さえろ
くにできなくなりました.
6. 原文 : 醫員을부른다藥을쓴다하얏스나도모지效力이업고이제는죽기만기다리게되
엿습니다.
日本語訳 : 医師を呼んだり, 薬を飲ませたりしましたが, 全く効力がなく, とう
とう死を待つだけになりました.
7. 原文 : 마침그때이말을듯고찾어온것은이웃에사는한少年이엿습니다.
日本語訳 : ちょうどその時, この話を聞いて訪ねてきたのが, 隣に住むある少年
でした.
8. 原文 : 老人의病室로들어가서問病한後, 「三年고개에서너머지신것이먼그러케격
정하실것은업습니다 액을때는조은方法이잇습니다」고합니다.
日本語訳 : お爺さんの病室に入って, お見舞いをし, 「『3年峠』で倒れたのでし
たら, それほどご心配なさる必要はありません。うまく切り抜けられるい

い方法があります。」としました。

9. 原文：老人은이말을듯고自己도모르게벌떡 일어나았으며，「무어억을때는수가잇어」

日本語訳：お爺さんはこの話を聞いて，思わずすくっと立ち上がって，「何？うまく切り抜けられる方法がある？」

10. 原文：「네잇습니다」

日本語訳：「はい，あります。」

11. 原文：「응엇더케하는것이냐」

日本語訳：「おお，どうやるんだ。」

12. 原文：「아조쉬은일이올시다 三年고개에가서 한번더너머지시면됩니다」

日本語訳：「とても簡単です。『3年峠』に行つて，もう一度倒れればいいんです。」

13. 原文：「무어너누구를조롱하느냐 한번더너머지면나는그자리에서죽고말라고」 하며老人은대단히성이나서목침으로少年을따리라합니다.

日本語訳：「何？お前，俺をからかっているのか。もう一度倒れたら，俺はその場で死んでしまうって。」と，お爺さんは腹が立って，木の枕で少年を殴ろうとします。

14. 原文：少年은，「아니올시다 잠간만참으시고제말씀을들으십시오 한번너머지면三年은살지안습닛가그러닛가두번너머지면六年이오 세번너머지면九年 네번너머지면十二年……이런조은方法이또어디잇겟습닛가」 하고말합니다.

日本語訳：少年は，「違います。ちょっと我慢して，僕の話をお聞き下さい。一度倒れたら，3年は生きられるじゃないですか。ですから，二度倒れたら6年ですし，三度倒れたら9年，四度倒れたら12年……こんないい方法が他にあるでしょうか。」と言いました。

15. 原文：老人은이말을듯고，「응그러켓다 네말이그럴듯하다」 하고다시곳三年고개 로가서함부로테굴테굴굴르면서，「이굴르는수효대로만살게하야주십시오」 하고빌엇드니어되선지，「걱정할것업다東方朔이도이고개에서六萬번이나굴렀다」 하는소리가들립니다.

日本語訳：お爺さんはこの話を聞いて，「ああ，そうだ。お前の言うとおりかも知れない。」と言い，またすぐ『3年峠』に行つて，やたらにごろごろ転げ回りながら，「この倒れた回数だけ生きるようにして下さい。」と祈つた

ら、どこから「心配は要らない。東方朔⁶⁾もこの峠で6万回も倒れた。」
という声が聞こえます。

16. 原文：이것은勿論그少年이附近에 숨어서 한말이나老人은그런줄도모르고, 「네네 그東方朔이가三千甲子東方朔이가」하고깃버못견디여하며그저작구굴르다가집으로돌아왔는데그後삼년이무엇입닛가매우오래도록살았다고합니다.
日本語訳：これは勿論その少年が隣に隠れていて言ったことですが、お爺さんはそれも知らずに、「はいはい、その東方朔が三千甲子東方朔⁷⁾なのか。」
と言いながら、嬉しくてたまらなくなって、何回も倒れてから家に帰り、その後3年どころか、とても長く生きたといえます。
17. 原文：여러분은이런이야기를들을때에이世上에서예로부터傳하야나려오는말中에는믿지못할것이만은줄알겠지요.
日本語訳：皆さんは、このような話を聞いて、世の中に昔から伝わっている話の中には、信じられないものが多いということが分かったでしょう。
18. 原文：믿을수업는것을믿는것이迷信이올시다.
日本語訳：信じられないようなことを信じてしまうのが迷信なのです。
19. 原文：鬼神이나독가비가世上에잇다고생각하는것도迷信입니다.
日本語訳：鬼やお化けが世の中にいると思うことも、迷信なのです。
20. 原文：鬼神이나독가비는사람들이지연년이야기가운데에는잇슬지라도實地로는업는것이올시다.
日本語訳：鬼やお化けは、人間が作った話の中にはいても、実際にはいないわけです。
21. 原文：도통迷信에빠지는것은文明人으로서는더할수업는수치올시다.
日本語訳：迷信に惑わされることは、文明人としてこの上なく恥かしいことなのです。

この教材は、どのような趣旨で教材化されたのか、ということについては、『普通

6) 東方朔：中国，前漢の文人。字（あざな）は曼倩（まんせん）。諧謔，風刺の才にすぐれ武帝に寵愛された。西王母の仙桃を盗んで食べた話など数々の逸話で知られる。〈日本国語大辞典〉

7) 삼천갑자 동방삭 (三千甲子 東方朔) : 중국 전한의 동방 삭을 18만 살이나 살았다고 하여 부르는 이름. 장수자의 대이름씨로 쓰인다. 〈우리말큰사전 (最新ハングル大辞典)〉 → 〈日本語訳〉 中国前漢の東方朔を 18万歳も生きたとって呼ぶ名称. 長寿者の代名詞として使われる。

学校朝鮮語読本巻四編纂趣意書』(1933年)が参考になる。この趣意書では、「五教材及び其ノ配列」で、教材を次の7種類に分けている。

修身的教材／歴史的教材／地理的教材／理科的教材／実業的教材／国民的教材／文学的教材

この中で、「三年峠」は「修身的教材」として位置づけられている。先の訳文で整理番号の17～21の部分を確認すると、この教材は「つまらぬ迷信の打破」を目指した教材であるということになるだろう⁸⁾。その後、この「三年峠」は『四年制普通学校朝鮮語読本 巻四』にも採録された。この時期にこの教材を採録したことの歴史的な意味付けについては、本報告書所収の三ツ井論文を参照いただきたい。

5.2 戦後韓国における教科書教材としての「三年峠」

「三年峠」が朝鮮総督府編纂教科書の教材であることを見た。この話は戦後の教科書にも載せられていくのだが、ここで説話の主題が変化する。朝鮮語読本の「迷信打破」の面はなくなり、「とんちばなし」へと変化する。さらに、知恵を出す子供が「近くの子供→孫」となり、おじいさんを助ける「孝行な孫」という話へと変化していく。この変遷に関しては、本報告書所収の千恵淑氏の論文を参照いただきたいが、興味深い変化である。ある世代には「三年峠」はこの戦後のテーマで捉えられていることは、次に引用する金東勲(キム・ドンフン)氏の文章(『実践国語研究』174「三年峠」と韓国・朝鮮人の心)からも明らかである。戦前の経緯を知らない世代にとっては、教材としての意味づけがまったく異なっている。

「三年峠」は、目上の人を大事にする韓国人の心を育むために役立つ話であり、韓国の教科書でも親孝行または祖父を思う孫の話として、子どもの教育に役立てることを意図しているようである。

(中略) 韓国の教科書の中には、息子のいわれるとおりにおじいさんが転んだという内容になっているものもあり、親の長寿を願う子どもの孝行の話になっている場合もあるようである。(中略) 実の親であれ隣のおじいさんであれ、年少者がお年寄りを気遣い大事にする心が、いかに美しく素晴らしいことかに「三年とうげ」の教材としての意義を認めているようである。

8) 参考までに、同じ編纂趣意書によると、この教科書では第八課で、「朝鮮在来の童話から採った」ものを載せているのだが、「三年峠」は別の扱いである。

このように、植民地朝鮮でまた戦後の韓国で教科書という媒体を通してその意味づけを全く変えながら「三年峠」という話は人々に広まっていった。

李氏の「さんねん峠」は、戦前の古いタイプの類話になっている。ただし、後半の「迷信打破」の部分はない。この説話が元々（つまり教科書教材になる前に）朝鮮半島でどのような形でどの程度流布していたのかという点については、千氏の調査が進行中であるが、近代以前の説話を集めた資料からは「三年峠」は今のところは見つからないようである。

6. 再生産される「三年坂」「三年峠」

最後に、三年坂や三年峠の逸話が、現在の日本でどのように再話されているかという点について教育と関わりの深い二つの事例を報告しておく。李氏の創作絵本『さんねん峠』も本来ここに位置づけられるものの一つであろう。

小説などでも三年坂およびその伝説をなんらかの形で取り入れたものも見られるが、ここではその点には触れない。また、現代の韓国などで同様の事例がないかという点も興味深い但未調査である。

6.1 児童劇のシナリオ「三年坂一たる天・じろ天」

二宮智恵子作（日本児童劇作の会編『みんなが活躍できる5年生の劇』1994 小学館）

クラス演劇のための創作シナリオである。おおまかなあらすじは以下のとおりである。

三年坂の古い言い言い伝えを信じて苦しんでいる村人たちの迷信を変えようと兄弟天狗が立て札をたてたりするが村人たちは信じない。そのとき通りがかりの老人が三年だけでも生きたいと言っているのを聞いてアイデアを思いつく。幸せ売りの若者に変身した天狗たちは「1回転ぶと3年生きられる」とプラス思考をふれてまわる。それを聞いた村人たちはこぞって坂に出かけて何度も転ぶ。

何を原拠にしたかについては不明であるが、この劇を実際に演じた報告はweb上にいくつも報告されている。

6.2 新作狂言「三年峠」

石塚雄康（『新作狂言集 第二集 三年峠 ほか』2000年 青雲書房）

玉川大学の「伝統芸能」という授業で狂言の研究をし、新作の狂言を演じて発表会を開くという公開テストの形で発表してきた新作狂言を集めたもの。原拠が「和歌山県の民話「三年坂」、李錦玉作「三年とうげ」より」と明記されている。李氏のものについては表記から見て、教科書教材の「三年とうげ」を参照していると思われる。あらすじは以下のとおりである。

主が太郎冠者に大きな鯛を背負って三年峠を越えて届けるように命じる。三年峠で2回も転んで落ち込む太郎冠者を主はさらに倒れさせる。5回転んだ太郎冠者にこれで十五年の齢を授かったのだと主は言う。目出たいといいながら主と太郎冠者が転びながら退場する。

和歌山の民話と李氏の話が同系統の類話であることを意識していることが明記されている点が興味深い。

7. まとめ

以上、小学校国語教科書教材「三年とうげ」について、京都三年坂伝説と似ているのは偶然かという問いからスタートした調査の結果を報告してきた。この原因としては、4.4で確認したように3つの可能性がある。

- 1) 日本と韓国で偶然類話が生まれた
- 2) 中国で生まれた話が、日本と韓国へ伝播した
- 3) 日本の民話（俗説）が韓国へ伝播した（→教科書の媒介）

本稿ではこの中で主に3の可能性について探ってきた。朝鮮半島における民話については千氏の調査が進行中であり、結論を出すことはできないが、少なくとも流布の過程に教科書が何らかの役割を果たした可能性は確認できたのではないだろうか。「朝鮮総督府編纂の教科書」「戦後韓国の教科書」「現代日本の小学校教科書」のそれぞれが、この説話に多くの人がふれる機会を提供してきた。

ハンゲルが読めないこと、また説話研究の専門家ではないことを考えると、筆者たちの調査はこれが限界かと思われるが、本稿で行った基本的な調査が、本格的な追求へとつながるきっかけを提供できているのであればそれに勝る喜びはない。

現在の小学校教諭のほとんどは、「三年とうげ」の背景にこのような問題があることについて情報を持っておらず、「お隣の国の有名な昔話」として教授している。「三年とうげ」という教科書教材の歴史について、教育現場に伝えていくことが我々の今後の課題である。

主要参考文献

- 李 淑子 1985 『教科書に描かれた朝鮮と日本 朝鮮における初等教科書の推移（1895-1979）』ほるぷ現代ボックス 009 ほるぷ出版
- 石塚雄康 2000 『新作狂言集 第二集 三年峠 ほか』青雲書房
- 上田崇仁 2000 「国定読本と朝鮮読本の共通性」『植民地教育史研究年報』3, p. 51-64, 日本植民地教育史研究会運営委員会編 皓星社
- 上田崇仁 2001 『植民地朝鮮における言語政策と「国語」普及に関する研究』広島大学大学院博士論文, Book Park オンデマンド出版
- 熊谷明泰 2004 『朝鮮総督府の「国語」政策資料』関西大学出版部
- 神坂次郎 1982 『紀州史散策 第五集』有馬書店
- 駒込 武 1996 『植民地帝国日本の文化統合』岩波書店
- 関 敬吾 1975 「東西民話観の相違」『国文学解釈と鑑賞』40-12, p. 6-16
- 1981 『関敬吾著作集 5』同朋社出版所収
- 全国国語教育実践研究会編 1997 『実践国語研究 別冊』174, 特集「三年とうげ—教材研究と全授業記録」明治図書
- 武田 正 1992 『日本昔話の伝承構造』名著出版
- 崔 仁鶴 1995 『韓日昔話の比較研究』三弥井書店
- 千 恵淑 2008 「韓・日〈三年峠説話〉の伝承と変異様相比較」(本報告書所収)
- 中村紀久二解説 1994 『復刻 国定修身教科書 解説・索引』大空社
- 二宮智恵子 1994 「三年坂—たろ天・じろ天—」日本児童劇作の会編『みんなが活躍できる5年生の劇』小学館, p. 62-79
- 丹羽基二 1988 『地名の語源と謎』南雲堂
- 三ツ井崇 2004 『植民地下朝鮮における言語支配の構造—朝鮮語規範化問題を中心に—』一橋大学大学院博士論文, Book Park オンデマンド出版
- 三ツ井崇 2008 「「さんねんとうげ」の政治的コンテクスト—朝鮮総督府朝鮮語教科書への採用をめぐる—」(本報告書所収)
- 森岡芳夫 1987 『韓国における国語・国史教育』原書房
- 安田敏朗 1997 『帝国日本の言語編制』世織書房
- 横関英一 1970 『江戸の坂 東京の坂』有峰書店 (1981 中公文庫)
- 横関英一 1975 『続 江戸の坂 東京の坂』有峰書店 (1982 中公文庫)

複製された朝鮮総督府の関連資料など

『朝鮮総督府施政年報』大正～昭和→(複製) クレス出版

『普通学校朝鮮語読本編纂ノ要旨』→『日本植民地教育政策資料集成』竜溪書舎

『普通学校朝鮮語読本卷四編纂趣意書』→同上

『朝鮮の教育(弓削幸太郎)』→同上

『普通学校朝鮮語読本卷1～6』→『旧植民地・占領地域用教科書集成』あゆみ出版

『朝鮮文朝鮮語講義録合本上・中・下』朝鮮語研究会

京都関係復刻資料

『新修 京都叢書』臨川書店 全23巻

(ヨシムラ ヒロミ 嘱託研究員)

(ナカガワ ヨシヒロ 嘱託研究員)